

**熊本学園大学**

**平成30年9月27日**

# **新潟水俣病の紹介**

**新潟県立環境と人間のふれあい館**

**—新潟水俣病資料館—**

**館長 塚田 真弘**



# 【環境と人間のふれあい館建設の歩み】

## 1 新潟水俣病第2次訴訟のあらまし

- ◆ 1965(昭40)年10月  
阿賀野川有機水銀中毒被災者の会正式結成  
(後の新潟水俣病被災者の会)

- ◆ 1967(昭42)年6月  
新潟水俣病第1次訴訟  
(弁護団幹事長・坂東克彦氏)

- ◆ 1971(昭46)年9月  
新潟水俣病第1次訴訟判決  
**原告勝訴、確定**

新潟日報 1971(昭和46)年9月29日



# 【環境と人間のふれあい館建設の歩み】

## 2 新潟水俣病第2次訴訟のあらまし

- ▶ 1982(昭57)年5月、新潟水俣病被害者の会結成  
同年6月、新潟水俣病第2次訴訟  
1990(平2)年9月、熊本水俣病東京訴訟で東京地裁和解勧告
- ▶ 1995(平7)年9月、連立与党(3党)は、熊本水俣病関係の問題について、最終解決案を示し、「水俣病対策について」の閣議了解を行うと共に、内閣総理大臣談話があった。

1995(平7)年12月11日、  
新潟水俣病被害者の会・共闘会議と昭和電工、解決協定を締結

### 【協定の枠組み】

- 1 昭和電工が解決対象者に一時金を支払う。
- 2 国及び県は、総合対策医療事業を継続すると共に、その申請受付を再開する。
- 3 救済を受ける人は、訴訟、認定申請、行政不服審査請求の取り下げる。
- 4 地域の再生・振興のために、昭和電工が2億5,000万円を新潟県に寄附する。

## 坂東克彦弁護士(新潟水俣病第二次訴訟の弁護団長)が、弁護団長辞任

➡ 熊本の被害者が和解の道を選ぶことに反対したことはありません。  
新潟の場合は、「水俣病の前に水俣病ありき」なのです。この点で、昭電と国の責任は、熊本の  
場合より一層重いものなのです。

国の「水俣病問題の解決に当たっての内閣総理大臣談話」が出ているが、国が新潟水俣病  
の発生の責任を認め謝罪をするのならば兎も角、首相の遺憾の意、程度では昭電が加害者  
の立場を認めるとは思えない。

政府案で解決してしまえば、これまでこの裁判に心を寄せ、それなら力になろうとやって  
くれた人達に対して、私は顔向けも出来ない、辞任しかなかった。



原田正純先生を囲む会にて  
平成23年10月



坂東先生とふれあい館職員  
平成29年3月

### 3 環境再生啓発事業（地域再生振興事業）について

◆ 1995（平7）年12月4日～6日

（環境庁） 新潟の当事者の解決の為に、県は地域再生に取り組んで欲しい。  
県で昭電からの寄附を受け入れて地域再生に取り組むなら昭電に話をする。

（県） 昭電の寄附を受入れ、県で水俣病の教訓を生かした事情取組を行う。

### 4 水俣市立水俣病資料館共同視察

◆ 1996（平8）年1月5日～6日

新潟水俣病共闘会議メンバーと新潟県担当者、計13名で水俣市立水俣病資料館を視察。  
視察先 ➡ 水俣市立水俣病資料館、熊本県立環境センター、歴史考証館



## 5 新潟県立環境と人間のふれあい館の建設、開館

### ◆ 2001(平13)年8月1日 「新潟県立環境と人間のふれあい館」開館

➡ 建設地の設定には、現地番(新潟市、旧豊栄市)選定でも、かなり混乱した。  
水俣病という負の遺産を管内に設けることへの不安。

## 6 開館に向けての問題

### ① 「館」名称の紛糾

- ◆ 新潟水俣病被害者の会(第2次訴訟)・共闘会議から、施設の名称として「新潟水俣病資料館」と明記してほしい。
- ◆ 新潟水俣病被災者の会(第1次訴訟)から、資料館の名称に「水俣病」の字句は入れるなの声が上がった。
- ◆ 知事と新潟水俣病被災者の会との面談  
施設の名称には、「水俣病」の文字は使用しないが、内部では使用する。  
施設の名称決定。➡ (新潟県立環境と人間のふれあい館)

### ② 看板の書き換え

2003(平15)4月1日 館の名称として「新潟水俣病資料館」の使用が許可された。

# 新潟県立環境と人間のふれあい館

## －新潟水俣病資料館－



新潟水俣病の経験と教訓を  
後世に伝えるため教育、普  
及啓発などの取組を行って  
います。

水俣病の教訓を生かす事業に取り組  
むため、被害者等の要望を踏まえ、  
2001年、新潟市北区の福島潟に、  
**新潟県立環境と人間のふれあい館 -  
新潟水俣病資料館-**を開館しました。



# 【新潟水俣病資料館の役割】

## 1 新潟水俣病の資料の整理



坂東弁護士尋問調書



近 喜代一氏日記



### 近 日記（近 喜代一氏）

当館所蔵の近日記には、No15と記され、1960(昭35)年8月20日から、1973(昭48)年5月8日に絶筆となるまで収蔵されている。

### 枝並ノート（枝並 福二氏）

新潟水俣病発生時の北野衛生部長の秘書的役割を果たしていた。  
面会者の名刺から、要件まで記されている。



## 所蔵資料収集の経緯

- 当館の資料のほとんどが坂東弁護士からの保管依頼であった。  
預託による条件＝整理可能・自由拝読
- 整理方法＝坂東弁護士資料の目録リスト化

## 利用に供するためのハードル

- 個人情報保護による開示
- 収蔵庫の不足
  - 当館所蔵資料＝ 新潟水俣病 第一次訴訟関係資料  
新潟水俣病 第二次訴訟関係資料
  - 未収蔵資料 ＝ 新潟水俣病 第三次訴訟関係資料  
新潟水俣病 第四次訴訟関係資料  
新潟水俣病 第五次訴訟関係資料

- ① 東京大学・椿忠雄助教授(後の新潟大学教授)が、新潟で初めて水俣病患者を診察した。(1965(昭和40)年1月18日)

1965(昭和40)年1月、原因不明の疾患として新潟大学病院へ入院していた新潟市内下山地区の患者を、椿忠雄助教授が診察した。東京大学で経験した水虫治療薬による重篤な水銀中毒の患者を診ており、それと同様の症状であつたことが、有機水銀中毒の断定に結びついた。

- ② 新潟県衛生部(現福祉保健部)北野部長は、1965(昭40)年5月31日新潟大学・椿教授及び植木幸明教授から聞かされた水俣病発生の事実を6月12日まで隠していた。

発生の事実だけの話は、県民にパニックを与えるだけと判断し、詳細を報告するまでの時間を要した。

- ③ 水道水源の変更を行った。水銀の検出について…

上越地方の水源地とされていた河水から、水道法に規定されている検査法ではNGだが、JISによるものでは陽性となったことにより、直ちに水源から除いた。

